

2025年12月期 通期決算説明会資料



AGC株式会社

2026年2月6日

Your Dreams, Our Challenge

2025年12月期 通期業績	P.4
1. 業績のポイントと主要項目	P.5
2. セグメント別の状況	P.12
2026年12月期 通期業績の見通し	P.19
付属資料	P.27

2025年12月期 通期業績

- 前期比で、売上高は横這い、営業利益は微増益。オートモーティブの収益改善が寄与
- 親会社の所有者に帰属する当期純利益は大幅改善
- ROEは4.7%に改善

2026年12月期 通期業績の見通し

- 営業利益は、ライフサイエンスの回復が牽引し、増益を見込む
- 親会社の所有者に帰属する当期純利益も改善見込み
- ROEは5.2%へ改善

2025年12月期 通期業績

1. 業績のポイントと主要項目

2025年12月期 通期業績

	FY2024 通期	FY2025 通期	増減
売上高	20,676	20,588	▲ 88*
営業利益	1,258	1,275	+ 16
税引前利益	▲ 501	1,248	+ 1,748
親会社の所有者に帰属する 当期純利益	▲ 940	692	+ 1,632
為替レート (期中平均)	1USD	JPY 151.6	JPY 149.7
	1EUR	JPY 163.9	JPY 169.0
原油 (Dubai、期中平均)	USD/BBL	79.61	69.44

*うち、為替差影響は+154億円、連結範囲変更の影響は▲51億円

主な変動要因

増収要因

- 自動車用ガラスの品種構成改善や価格政策の効果
- パフォーマンスケミカルズの価格政策の効果や出荷増
- 欧米建築ガラス価格政策の効果

減収要因

- 塩化ビニル樹脂の販売価格下落
- 電子部材のEUV露光用フォトマスクブランクスの出荷減
- アジア建築ガラスの販売価格下落

上述の要因に加え、

増益要因

- ディスプレイ等の収益改善施策の効果発現

減益要因

- 原燃材料価格や製造原価等のコスト上昇

上述の要因に加え、

増益要因

- その他費用として前期に計上した、関係会社株式売却損(ロシア事業譲渡)及びバイオ医薬品CDMOの大規模減損損失の剥落

減益要因

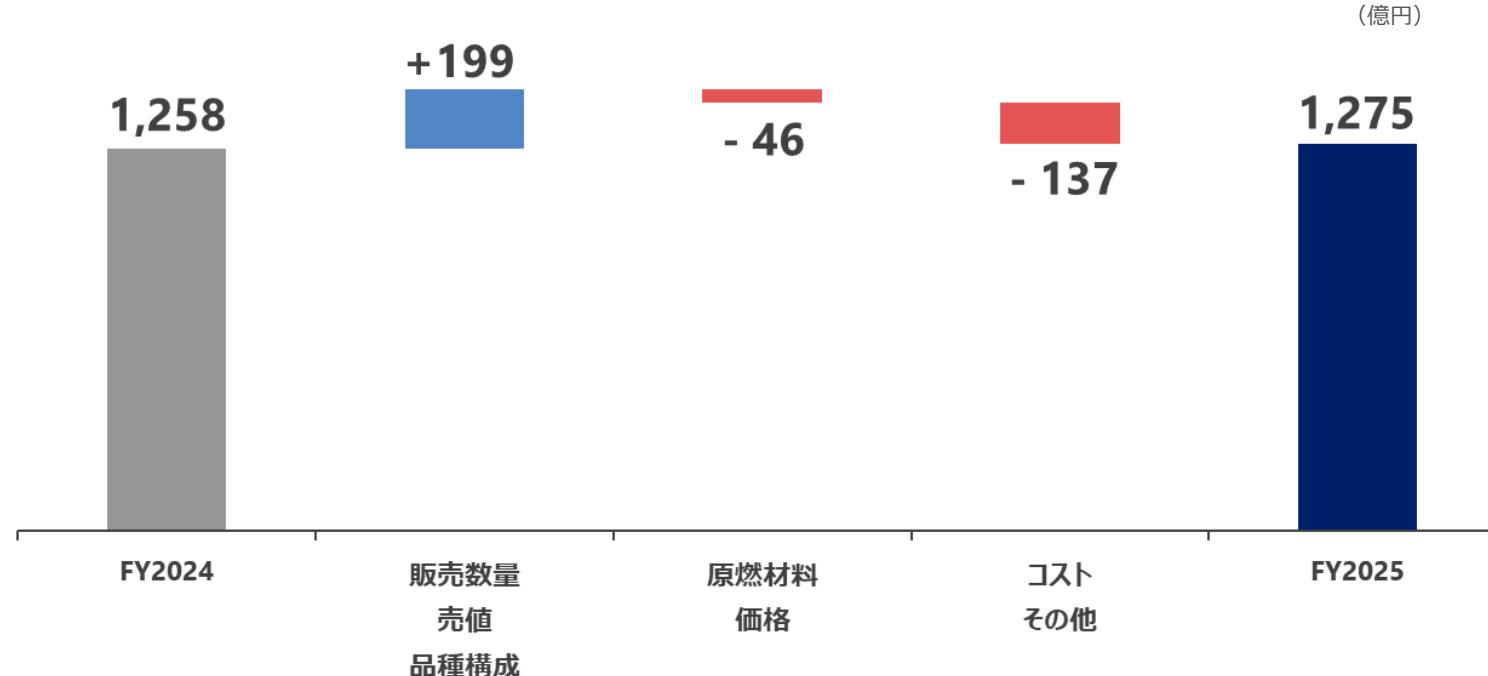
- 為替差益の減少

セグメント別業績 前期比較

(億円)

	FY2024 通期 (a)		FY2025 通期 (b)		増減 (b)-(a)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
 建築ガラス	4,380	164	4,411	173	+ 32	+ 9
 オートモーティブ	4,988	139	5,206	293	+ 218	+ 153
 電子	3,645	545	3,551	475	▲ 95	▲ 69
 化学品	5,936	568	5,842	530	▲ 94	▲ 37
 ライフサイエンス	1,412	▲ 212	1,331	▲ 223	▲ 81	▲ 11
 セラミックス・その他	791	51	599	26	▲ 192	▲ 25
消去	▲ 477	4	▲ 351	1	+ 126	▲ 3
合計	20,676	1,258	20,588	1,275	▲ 88	+ 16

前期比 16億円増益



連結財政状態計算書

	2024/12/31	2025/12/31	(億円) 増減
現金及び現金同等物	1,080	947	▲ 133
棚卸資産	4,541	4,654	+ 113
有形固定資産・無形資産及びのれん	16,529	17,604	+ 1,075
その他	6,746	6,296	▲ 450
資産合計	28,897	29,501	+ 604
有利子負債	6,497	6,465	▲ 33
その他	5,682	5,719	+ 37
負債の部	12,180	12,184	+ 4
親会社の所有者に帰属する持分合計	14,358	14,851	+ 493
非支配持分	2,359	2,466	+ 107
資本の部	16,717	17,317	+ 600
負債及び資本合計	28,897	29,501	+ 604
D/E比率	0.39	0.37	

為替差影響
+1,017億円

為替差影響
+399億円

連結キャッシュフロー計算書

	FY2024 通期	FY2025 通期
税引前利益	▲ 501	1,248
減価償却費及び償却費	1,813	1,798
運転資金増減	94	220
その他	1,442 ^{*1}	▲ 521
営業活動によるCF	2,848	2,745
投資活動によるCF	▲ 1,956 ^{*2}	▲ 1,784
フリーキャッシュフロー	892	961
有利子負債増減	▲ 790	▲ 632
支払配当	▲ 446	▲ 446
その他	▲ 84	▲ 62
財務活動によるCF	▲ 1,319	▲ 1,141
現金等に係る換算差額等	46	47
現金等の増減額	▲ 381	▲ 133

*1

減損損失の影響
+1,248億円

キャッシュアウトを伴わない
関係会社売却による損失
の影響

+365億円

*2

関係会社売却による
キャッシュインの影響
+221億円

設備投資額・減価償却費・研究開発費

(億円)

	FY2024 通期	FY2025 通期		FY2024 通期	FY2025 通期		FY2024 通期	FY2025 通期	
設備投資額	2,575	2,513		減価償却費	1,813	1,798		研究開発費	
建築ガラス	338	331		建築ガラス	249	262			
オートモーティブ	355	431		オートモーティブ	324	318			
電子	406	529		電子	532	496			
化学品	1,082	902		化学品	535	554			
ライフサイエンス	358	281		ライフサイエンス	157	153			
セラミックス・その他	37	39		セラミックス・その他	18	17			
消去	▲ 0	▲ 0		消去	▲ 2	▲ 1			

**2025年
主な設備投資
案件**

- 電子部材関連製造設備増強（電子）
- 東南アジアクロールアルカリ能力増強（化学品）
- フッ素関連製品能力増強（化学品）
- バイオ医薬品・合成医農薬CDMO能力増強（ライフサイエンス） など

2. セグメント別の状況

	FY2024 通期	FY2025 通期	増減
売上高			
アジア	4,380	4,411	+ 32 *
欧米	1,579	1,535	▲ 44
(セグメント間)	2,777	2,853	+ 76
営業利益	24	23	▲ 1
	164	173	+ 9

* うち、為替差影響は+53億円、連結範囲変更の影響は▲41億円

(億円)

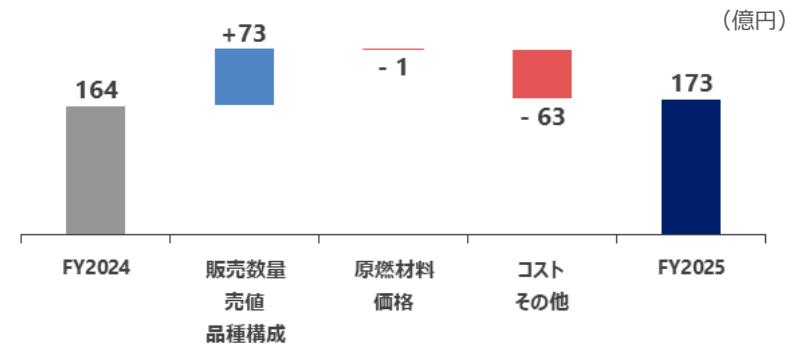
売上高

- アジアは、出荷が減少したことに加え、インドネシア等で販売価格が下落
- 欧米は、欧州での出荷減少や前期2月のロシア事業譲渡に伴う減収影響があったものの、価格政策の効果に加えて円安による增收影響が寄与

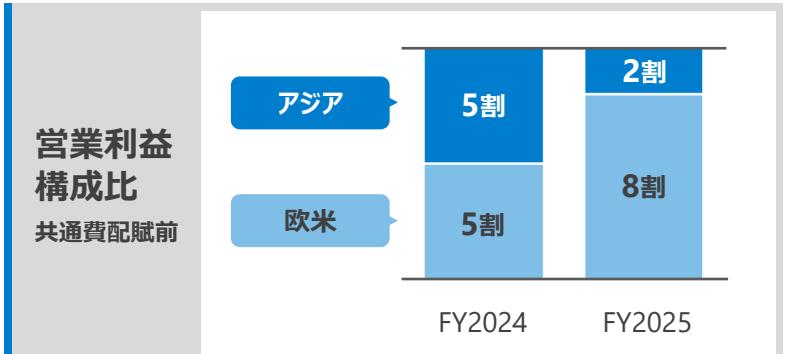
営業利益

- 人件費等のコストが増加したものの、上述の增收要因が寄与

営業利益増減要因分析

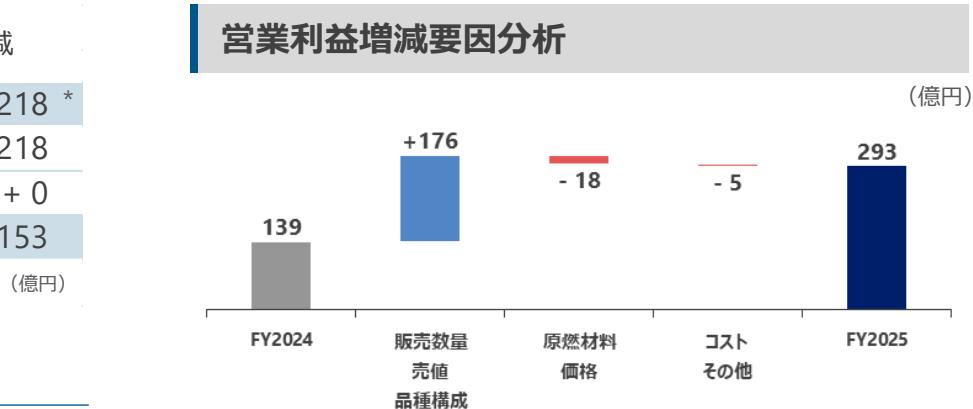


営業利益 構成比 共通費配賦前



	FY2024 通期	FY2025 通期	増減
売上高	4,988	5,206	+ 218 *
オートモーティブ	4,986	5,203	+ 218
(セグメント間)	2	3	+ 0
営業利益	139	293	+ 153

* うち、為替差影響は+21億円、連結範囲変更の影響は▲10億円



売上高

- 出荷は欧州では減少したものの、日本で増加
- 品種構成改善や価格政策効果に加えて円安による增收影響が寄与

営業利益

- 原燃材料や人件費等のコストが増加したものの、上述の增收要因が寄与

	FY2024 通期	FY2025 通期	増減
売上高	3,645	3,551	▲ 95 *
ディスプレイ	1,792	1,847	+ 55
電子部材	1,836	1,685	▲ 151
(セグメント間)	18	18	+ 0
営業利益	545	475	▲ 69

* うち、為替差影響は+14億円、連結範囲変更の影響はなし (億円)

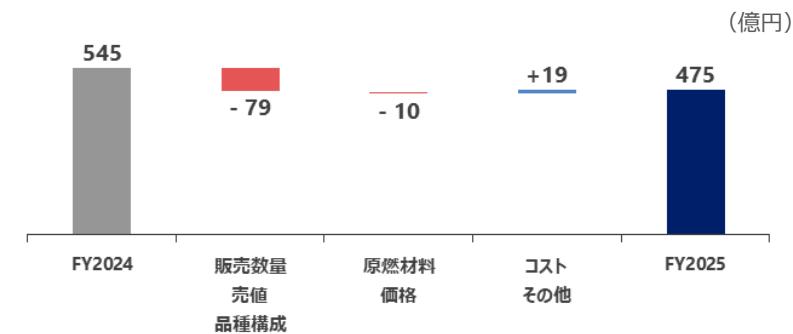
売上高

- ディスプレイは、液晶ディスプレイ用ガラス基板の出荷が増加
- 電子部材は、オプトエレクトロニクスは更なる高機能化に向けた移行期、EUV露光用フォトマスクブランクスは出荷減

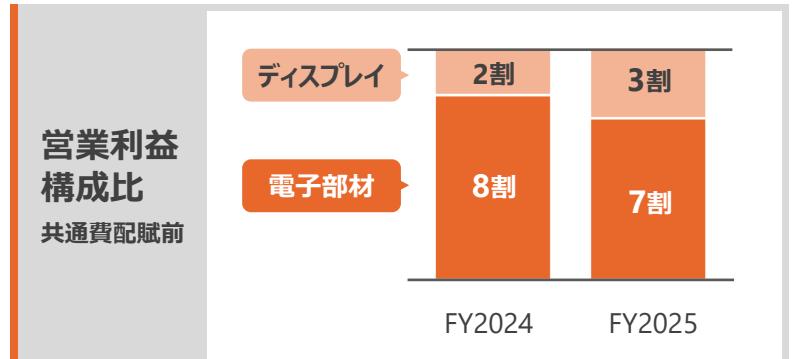
営業利益

- 上述の減収要因に加え、化学強化用特殊ガラス事業撤退決定に伴う費用を計上

営業利益増減要因分析



営業利益構成比 共通費配賦前



	FY2024 通期	FY2025 通期	増減
売上高			
エッセンシャルケミカルズ	5,936	5,842	▲ 94 *
パフォーマンスケミカルズ (セグメント間)	4,118	3,834	▲ 284
	1,780	1,961	+ 182
	39	47	+ 8
営業利益	568	530	▲ 37

* うち、為替差影響は+44億円、連結範囲変更の影響はなし (億円)

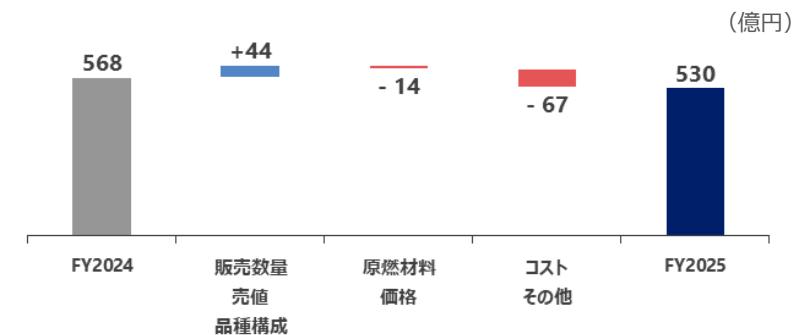
売上高

- エッセンシャルケミカルズは、塩化ビニル樹脂の販売価格が下落
- パフォーマンスケミカルズは、価格政策や、エレクトロニクス・モバティ向け等のフッ素関連製品の出荷増が寄与

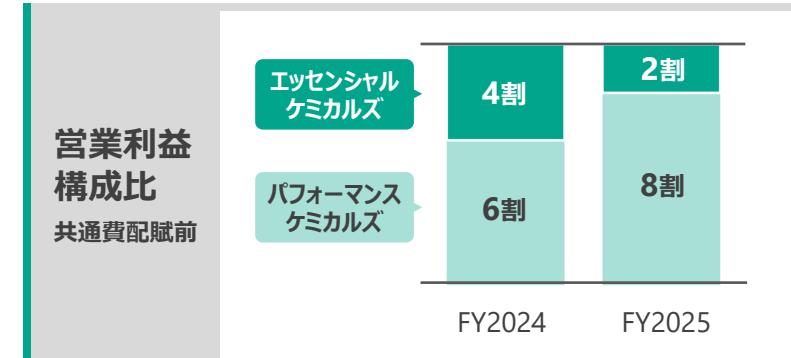
営業利益

- 上述の減収要因に加え、設備修繕に伴う製造原価の悪化等

営業利益増減要因分析



営業利益 構成比 共通費配賦前



	FY2024 通期	FY2025 通期	増減
売上高	1,412	1,331	▲ 81 *
ライフサイエンス (セグメント間)	1,373 39	1,294 37	▲ 79 ▲ 2
営業利益	▲ 212	▲ 223	▲ 11

* うち、為替差影響は+24億円、連結範囲変更の影響はなし

(億円)

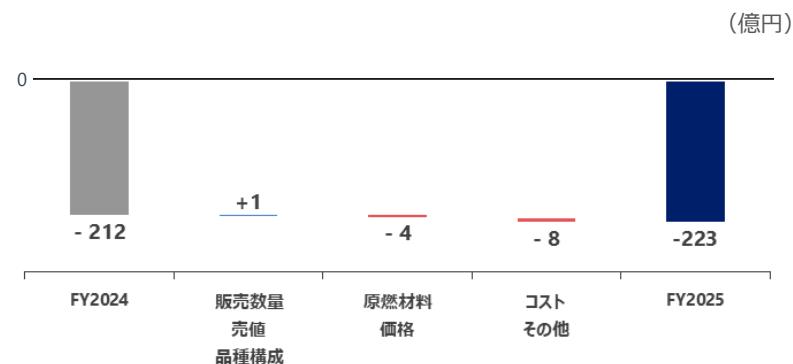
売上高

- 合成医農薬CDMOは堅調に推移
- バイオ医薬品CDMOは前期に計上した受託案件精算に伴う一時収入が剥落。米国コロラド拠点閉鎖の影響

営業利益

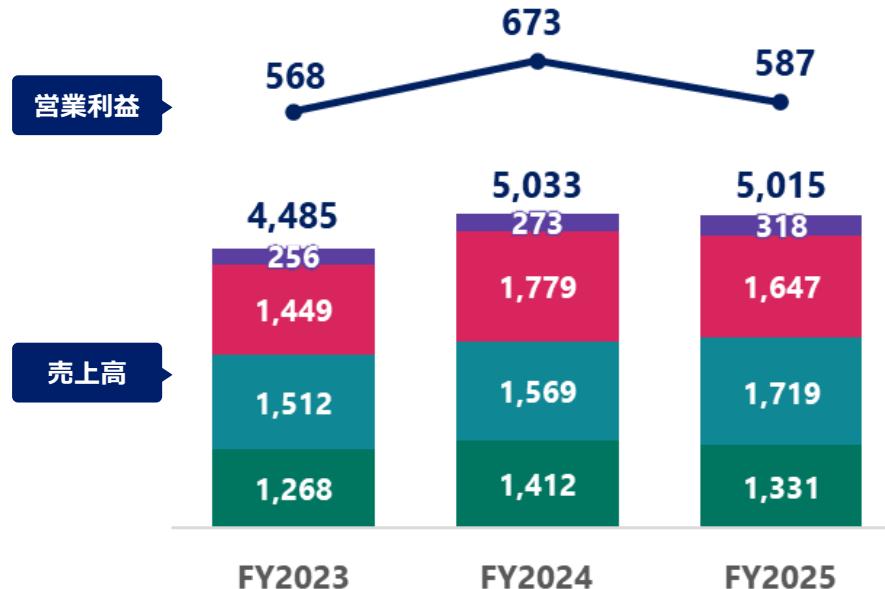
- バイオ医薬品CDMO米国拠点における固定費削減施策等の効果は発現したものの、上述の減収要因に加え、前期に欧州で稼働を開始した増設設備により固定費が増加

営業利益増減要因分析



- パフォーマンスケミカルズとモビリティの売上高は伸長したものの、エレクトロニクスの出荷減やライフサイエンスの売上減の影響が大きく、全体では前期比減益

戦略事業 業績推移 (億円)



2026年12月期 通期業績の見通し

2026年の主要経済・市場の当社想定

- 厳しい状況が継続する市場はあるが、グローバル経済は緩やかに成長

経済・市場	2026年の想定	特に影響を受ける事業
グローバル経済	AI関連投資の拡大や主要国における金融環境の緩和を背景に、 緩やかに成長	全事業 (+ -)
欧州経済	景気 停滞が継続	建築ガラス・オートモーティブ (-)
中国経済	景気 停滞が継続	エッセンシャルケミカルズ東南アジア (-)
米国経済	景気は 底堅く推移	エレクトロニクス (+)
自動車市場	生産台数は弱含みも、高機能化は継続	オートモーティブ (+ -)
苛性ソーダ・塩ビ市況	東南アジアの塩ビ・苛性ソーダの市場価格は 低水準が継続	エッセンシャルケミカルズ東南アジア (-)
半導体市場	半導体市場はAI関連分野が牽引し 成長	エレクトロニクス・パフォーマンスケミカルズ (+)
スマートフォン市場	生産台数は横這いも、高機能化は継続	エレクトロニクス (+)
TV市場	台数は横這いも、TVセットの 大型化は継続	ディスプレイ (+)
バイオ医薬品CDMO市場	緩やかに回復	ライフサイエンス (+)

2026年12月期 通期業績見通し

- 事業環境は厳しいものの增收・増益
- ROEは5.2%に改善

		FY2025	FY2026e
売上高		20,588	22,000
	(上期)	9,955	10,700
営業利益		1,275	1,500
	(上期)	540	600
税引前利益		1,248	1,240
親会社の所有者に帰属する当期純利益		692	770
1株当たり配当 (円)		210	210
営業利益率		6.2%	6.8%
ROE*		4.7%	5.2%
為替レート (期中平均)	1 USD	JPY 149.7	JPY 155.0
	1 EUR	JPY 169.0	JPY 180.0
原油 (Dubai、期中平均)	USD/BBL	69.4	70.0

* FY2026予想のROEは、2025年12月末時点の親会社の所有者に帰属する持分合計を使用

セグメント別 売上高/営業利益見通し

- ライフサイエンスの改善が寄与し、全体として増収増益

	(億円)					
	FY2025 (a)		FY2026e (b)		増減 (b)-(a)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
 建築ガラス	4,411	173	4,800	200	+ 389	+ 27
 オートモーティブ	5,206	293	5,100	320	▲ 106	+ 27
 電子	3,551	475	3,600	450	+ 49	▲ 25
 化学品	5,842	530	6,800	560	+ 958	+ 30
 ライフサイエンス	1,331	▲ 223	1,600	▲ 50	+ 269	+ 173
 セラミックス・その他	599	26	600	20	+ 1	▲ 6
消去	▲ 351	1	▲ 500	0	▲ 149	▲ 1
合計	20,588	1,275	22,000	1,500	+ 1,412	+ 225

FY2026 見通し（vs FY2025）



建築ガラス

アジア

- タイとインドネシアでの需要回復により出荷は増加
- 価格政策や生産性改善の取り組みを継続

欧米

- 欧州での景気低迷が継続し、出荷の回復は限定的
- 価格水準の維持やコスト削減に注力



オートモーティブ

- 自動車生産台数の減少により出荷は減少
- 品種構成改善や価格政策に加え、構造改革や生産性向上に向けた取り組みを継続



電子

ディスプレイ

- 液晶用ガラス基板の出荷はやや減少
- 収益改善施策を継続

電子部材

- EUV露光用フォトマスクブランクス等の半導体関連部材は出荷が増加
- オプトエレクトロニクス用部材の出荷は前期並み

FY2026 見通し（vs FY2025）



化学品

インテグレイテッドケミカルズ

- エレクトロニクス向け等のフッ素関連製品や、クロールアルカリ製品の出荷増

エッセンシャルケミカルズ東南アジア

- 増設設備の本格稼働により出荷増

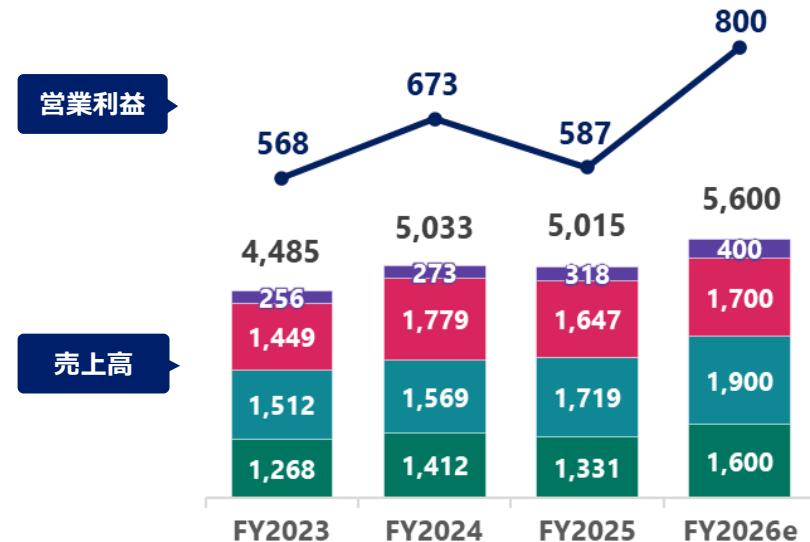


ライフサイエンス

- 合成医農薬CDMOは、増設設備の稼働開始等により売上増加
- バイオ医薬品CDMOは、売上増加に加え、米国コロラド拠点閉鎖により赤字が大きく縮小

- 全ての戦略事業の売上高が伸長し、前年比増収増益の見通し
- 営業利益の改善はライフサイエンスが牽引

戦略事業 業績推移 (億円)



モビリティ

高機能製品の出荷が増加

エレクトロニクス

EUV露光用フォトマスクブランクス等
半導体関連部材の出荷が増加

パフォーマンス ケミカルズ

エレクトロニクス向けを中心とした
フッ素関連製品の出荷が増加

ライフサイエンス

バイオ医薬品CDMOの受託案件増加に加え
合成医農薬CDMOの増設設備が稼働開始

設備投資額・減価償却費・研究開発費の見通し

- 2025年で大規模な能力拡大投資は一段落、2026年の設備投資を圧縮

	FY2025	FY2026e		FY2025	FY2026e		FY2025	FY2026e	(億円)	
設備投資額	2,513	1,900		減価償却費	1,798	1,830		研究開発費	603	620
建築ガラス	331	270		建築ガラス	262	260				
オートモーティブ	431	330		オートモーティブ	318	290				
電子	529	470		電子	496	480				
化学品	902	480		化学品	554	640				
ライフサイエンス	281	330		ライフサイエンス	153	140				
セラミックス・その他	39	20		セラミックス・その他	17	20				
消去	▲ 0	0		消去	▲ 1	0				

2026年 主な設備投資 案件

- 建築用ガラス製造窯修繕（建築ガラス）
- 自動車用ガラス加工ライン増設（オートモーティブ）
- ディスプレイ製造窯修繕（電子）
- 電子部材関連製造設備増強（電子）
- フッ素関連製品能力増強（化学品）
- バイオ医薬品CDMO能力増強（ライフサイエンス）など

付屬資料

営業利益に対するインパクト



為替

1%円安で
5億円*増益

*JPYに対して全ての通貨が同じ割合で動いた場合の
影響額



原油

1バレルあたり
1ドル上昇した場合
2.6億円*減益

*ヘッジ影響除く



化学品
市況

① 苛性ソーダ

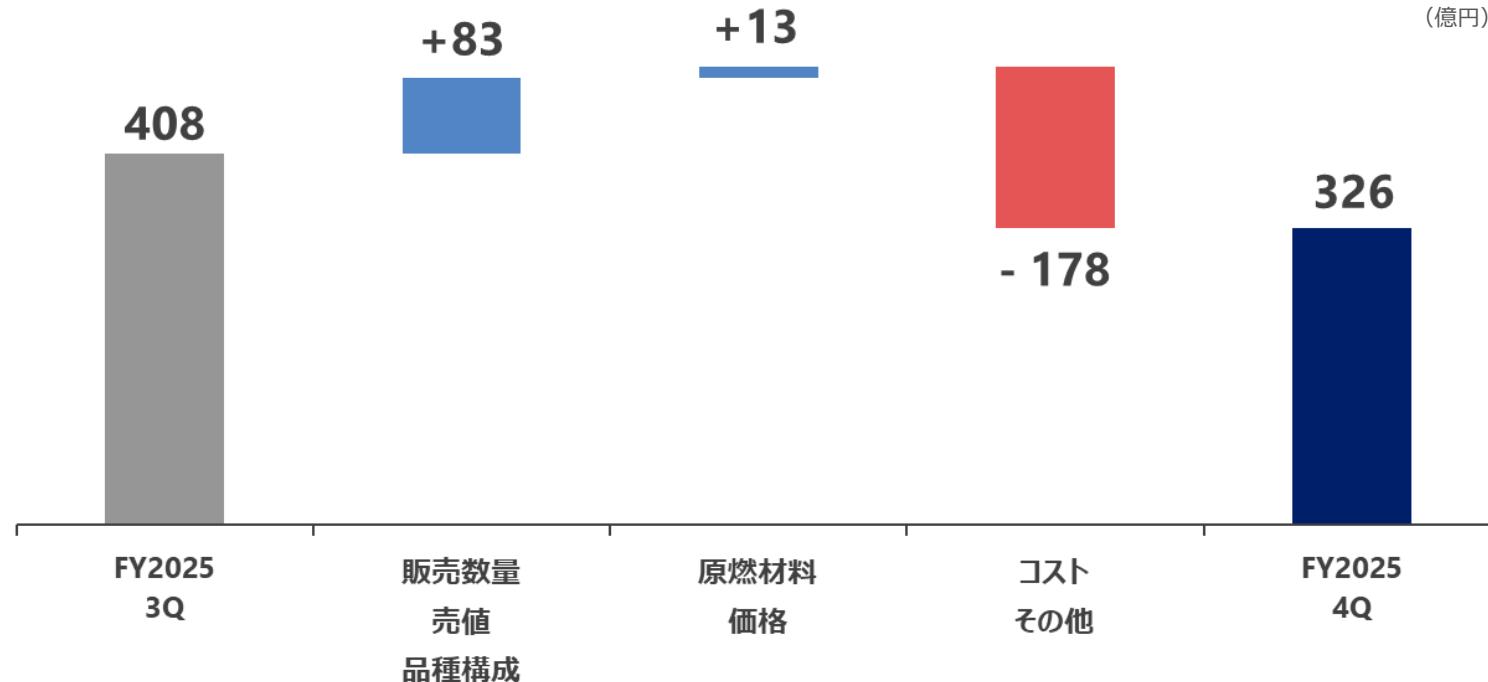
国際市況が\$1上ると **\$1.3M**の増益

② 塩ビスプレッド

\$1上ると **\$1.7M**の増益*

*塩ビスプレッド：塩ビ市況 - (エチレン市況×0.5)

前四半期比 82億円減益



地域別業績 前期比較

	FY2024 通期	FY2025 通期	増減 (億円)
売上高	20,676	20,588	▲ 88
日本・アジア	13,181	12,990	▲ 191
アメリカ	2,569	2,440	▲ 129
ヨーロッパ	4,926	5,158	+ 232
営業利益	1,258	1,275	+ 16
日本・アジア	1,817	1,689	▲ 128
アメリカ	▲ 138	▲ 27	+ 111
ヨーロッパ	89	96	+ 7
地域共通費用	▲ 510	▲ 484	+ 27

為替差影響

+ 154 億円

連結範囲変更の影響

▲ 51 億円

第4四半期 売上高 セグメント・地域別展開 前年同期比較

(億円)

		日本・アジア	アメリカ	ヨーロッパ	セグメント間	合計
 建築ガラス	4Q FY2025	438	76	685	4	1,203
	4Q FY2024	444	67	565	6	1,083
 オートモーティブ	4Q FY2025	692	283	373	1	1,350
	4Q FY2024	665	260	312	1	1,238
 電子	4Q FY2025	827	119	2	5	954
	4Q FY2024	831	138	3	4	977
 化学品	4Q FY2025	1,348	89	76	16	1,529
	4Q FY2024	1,399	78	53	12	1,542
 ライフサイエンス	4Q FY2025	68	44	242	16	369
	4Q FY2024	62	81	260	10	412
 セラミックス・その他	4Q FY2025	104	-	-	75	180
	4Q FY2024	121	-	▲ 7	55	170
消去	4Q FY2025	-	-	-	▲ 117	▲ 117
	4Q FY2024	-	-	-	▲ 88	▲ 88
合計		4Q FY2025	3,478	611	1,378	-
		4Q FY2024	3,523	625	1,186	-
						5,334

通期売上高 セグメント・地域別展開 前期比較

(億円)

		日本・アジア	アメリカ	ヨーロッパ	セグメント間	合計
 建築ガラス	FY2025	1,535	298	2,555	23	4,411
	FY2024	1,579	288	2,489	24	4,380
 オートモーティブ	FY2025	2,605	1,146	1,452	3	5,206
	FY2024	2,490	1,097	1,399	2	4,988
 電子	FY2025	3,057	465	10	18	3,551
	FY2024	3,096	522	9	18	3,645
 化学品	FY2025	5,146	345	304	47	5,842
	FY2024	5,324	324	250	39	5,936
 ライフサイエンス	FY2025	270	186	838	37	1,331
	FY2024	255	339	780	39	1,412
 セラミックス・その他	FY2025	376	-	-	223	599
	FY2024	436	-	-	355	791
消去	FY2025	-	-	-	▲ 351	▲ 351
	FY2024	-	-	-	▲ 477	▲ 477
合計	FY2025	12,990	2,440	5,158	-	20,588
	FY2024	13,181	2,569	4,926	-	20,676

四半期業績推移 (1)

(億円)								
建築ガラス	1Q FY2024	2Q FY2024	3Q FY2024	4Q FY2024	1Q FY2025	2Q FY2025	3Q FY2025	4Q FY2025
売上高	1,103	1,144	1,050	1,083	1,040	1,068	1,100	1,203
アジア	352	386	397	444	346	361	390	438
欧米	746	750	648	632	685	703	705	761
(セグメント間)	5	8	6	6	10	4	5	4
営業利益	42	60	38	24	▲9	42	68	72
オートモーティブ	1Q FY2024	2Q FY2024	3Q FY2024	4Q FY2024	1Q FY2025	2Q FY2025	3Q FY2025	4Q FY2025
売上高	1,242	1,277	1,231	1,238	1,287	1,269	1,299	1,350
オートモーティブ	1,240	1,278	1,231	1,237	1,287	1,269	1,299	1,349
(セグメント間)	1	▲1	1	1	1	0	1	1
営業利益	48	58	9	25	77	74	83	59
電子	1Q FY2024	2Q FY2024	3Q FY2024	4Q FY2024	1Q FY2025	2Q FY2025	3Q FY2025	4Q FY2025
売上高	825	868	975	977	867	815	915	954
ディスプレイ	428	473	421	470	458	443	461	485
電子部材	394	391	547	503	405	367	450	463
(セグメント間)	3	4	7	4	4	5	4	5
営業利益	72	128	164	181	140	104	116	115

四半期業績推移 (2)

	(億円)							
化学品	1Q FY2024	2Q FY2024	3Q FY2024	4Q FY2024	1Q FY2025	2Q FY2025	3Q FY2025	4Q FY2025
売上高	1,436	1,468	1,490	1,542	1,441	1,417	1,455	1,529
エッセンシャルケミカルズ	1,005	1,006	1,034	1,072	979	912	956	987
パフォーマンスケミカルズ	421	453	447	458	451	496	489	525
(セグメント間)	10	8	8	12	12	10	9	16
営業利益	136	140	170	121	111	115	171	134
ライフサイエンス	1Q FY2024	2Q FY2024	3Q FY2024	4Q FY2024	1Q FY2025	2Q FY2025	3Q FY2025	4Q FY2025
売上高	325	311	364	412	310	325	326	369
ライフサイエンス	309	307	354	402	300	317	324	353
(セグメント間)	16	4	10	10	10	8	2	16
営業利益	▲ 63	▲ 79	▲ 26	▲ 45	▲ 62	▲ 58	▲ 43	▲ 60
全社	1Q FY2024	2Q FY2024	3Q FY2024	4Q FY2024	1Q FY2025	2Q FY2025	3Q FY2025	4Q FY2025
売上高	4,987	5,165	5,190	5,334	4,996	4,959	5,167	5,467
営業利益	241	325	373	318	258	282	408	326

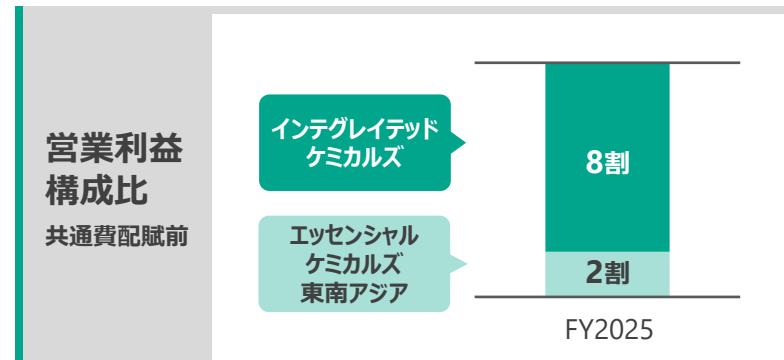
化学品 新サブセグメントによる2025年業績

FY2025

通期

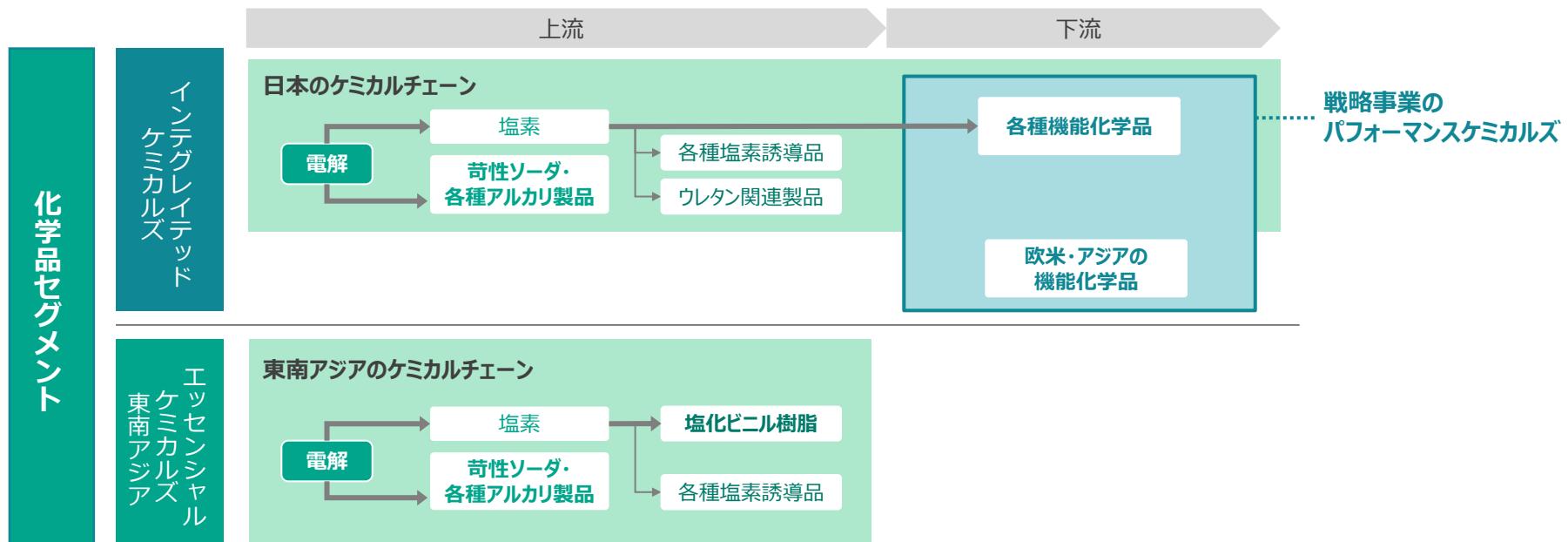
売上高	5,842
インテグレイテッド ケミカルズ	3,020
エッセンシャルケミカルズ東南アジア	2,775
(セグメント間)	47
営業利益	530

(億円)



インテグレイテッドケミカルズと 戦略事業のパフォーマンスケミカルズの関係

- インテグレイテッドケミカルズは、日本のケミカルチェーンの上流～下流と、欧米・アジアの機能化学品等を含む
- 戦略事業のパフォーマンスケミカルズは、上記からケミカルチェーンの上流等を除いたもの



数量・価格動向		2024				2025					
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
前年同四半期比 (YoY)											
ガラス	建築用ガラス (AGC)	日ア	数量	▲10%台半ば	+1割弱	微増	▲1桁半ば	▲1桁半ば	▲1桁半ば		
			価格	+1桁半ば	▲1桁半ば	▲1桁半ば	▲1桁半ば	▲1桁半ば	▲1割弱		
	欧州 ^{*2}	数量	横ばい	+1割弱	▲1桁半ば	横ばい	+1桁半ば	▲1割強	微減		
			価格	▲3割強	▲3割	▲10%台半ば	▲10%台半ば	▲1割弱	+4割弱		
電子	自動車生産台数 (S&P global 12/15データより)	日本	数量	▲14%	▲5%	▲7%	▲8%	+11%	+1%		
		北米	数量	+2%	+0%	▲4%	▲4%	▲5%	▲4%		
		欧州 ^{*2}	数量	▲3%	▲6%	▲6%	▲9%	▲6%	▲0%		
電子	ディスプレイパネル需要 ^{*1} (Omdia社)		グローバル	面積	+10%	+5%	+0%	+11%	+10%		
								▲3%	+7%		
*1 出典：Omdia-Display Long-Term Demand Forecast Tracker – 4Q25 Pivot with 3Q25 Results Results are not an endorsement of AGC Inc. Any reliance on these results is at the third-party's own risk.											
*2 東欧を除く											

セグメント別 ROCE・EBITDA

	(億円)								
	営業利益		EBITDA*		ROCE		営業資産		
	FY2024	FY2025	FY2024	FY2025	FY2024	FY2025	FY2024	FY2025	
 建築ガラス	164	173	413	435	5.5%	5.2%	3,000	3,300	
 オートモーティブ	139	293	464	611	4.2%	8.5%	3,350	3,450	
 電子	545	475	1,076	971	9.2%	8.2%	5,950	5,800	
 化学品	568	530	1,102	1,084	7.8%	7.0%	7,250	7,600	
 ライフサイエンス	▲ 212	▲ 223	▲ 55	▲ 70	▲ 10.1%	▲ 9.3%	2,100	2,400	
 セラミックス・その他	51	26	69	43	25.6%	10.4%	200	250	
消去	4	1	2	▲ 1	—	—	—	—	—
合計	1,258	1,275	3,071	3,073	5.8%	5.6%	21,850	22,800	

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

		IFRS				
		21/12	22/12	23/12	24/12	25/12
売上高	百万円	1,697,383	2,035,874	2,019,254	2,067,603	2,058,832
営業利益	百万円	206,168	183,942	128,779	125,835	127,465
営業利益率	%	12.1	9.0	6.4	6.1	6.2
親会社の所有者に帰属する当期純利益	百万円	123,840	▲ 3,152	65,798	▲ 94,042	69,162
自己資本当期純利益率 (ROE) *1	%	10.2	▲ 0.2	4.6	▲ 6.5	4.7
総資産営業利益率 (ROA) *2	%	7.9	6.7	4.5	4.3	4.4
自己資本比率	%	49	49	49	50	50
D/E (有利子負債・純資産比率)	倍	0.41	0.41	0.42	0.39	0.37
有利子負債 / EBITDA*3	倍	1.6	1.8	2.3	2.1	2.1
営業CF / 有利子負債	倍	0.54	0.33	0.31	0.44	0.43
一株当たり当期純利益 (EPS)	円	559.11	▲ 14.22	304.73	▲ 443.71	326.20
一株当たり配当金	円/年	210	210	210	210	210
為替レート (期中平均)	円/ドル	109.80	131.43	140.56	151.58	149.71
	円/ユーロ	129.89	138.04	152.00	163.95	169.00

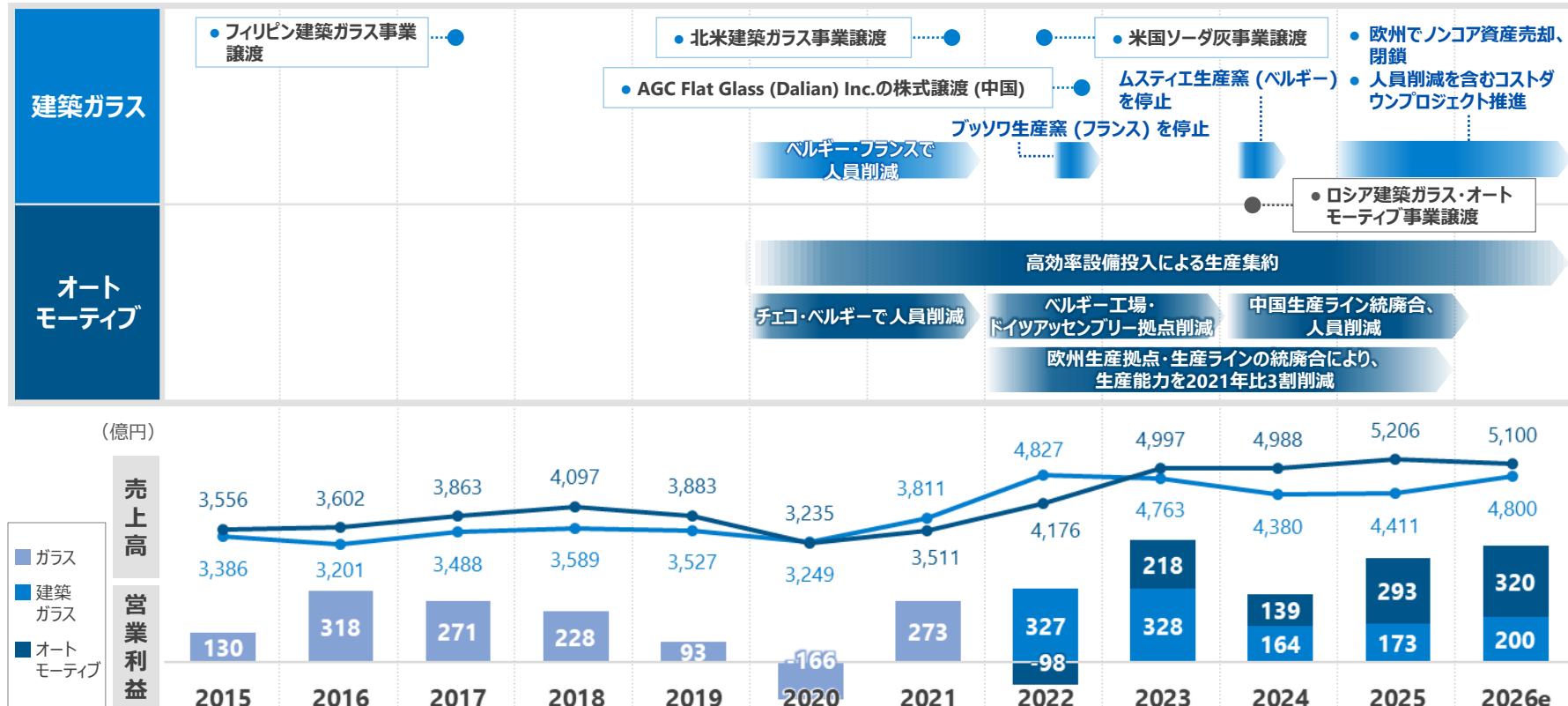
*1 親会社の所有者に帰属する当期純利益/親会社の所有者に帰属する持分合計（期中平均）

*2 営業利益/総資産（期中平均）

*3 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

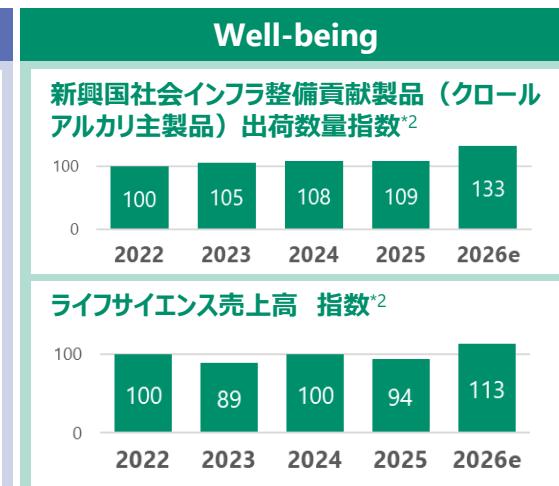
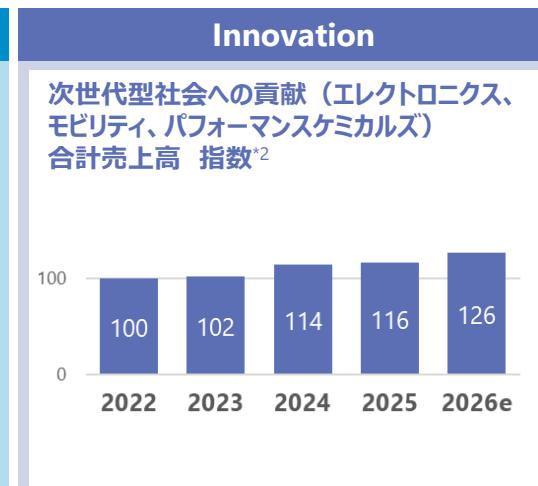
その他の財務指標についてはこちらを参照ください  https://www.agc.com/ir/pdf/data_all.pdf

建築ガラスとオートモーティブの構造改革



*2022年よりガラスセグメントの開示を建築ガラスセグメントとオートモーティブセグメントに分割

■ GHG排出量削減は堅調に推移



予測に関する注意事項：

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものですが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願ひいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権はAGC株式会社に帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

収益性の改善に向けて

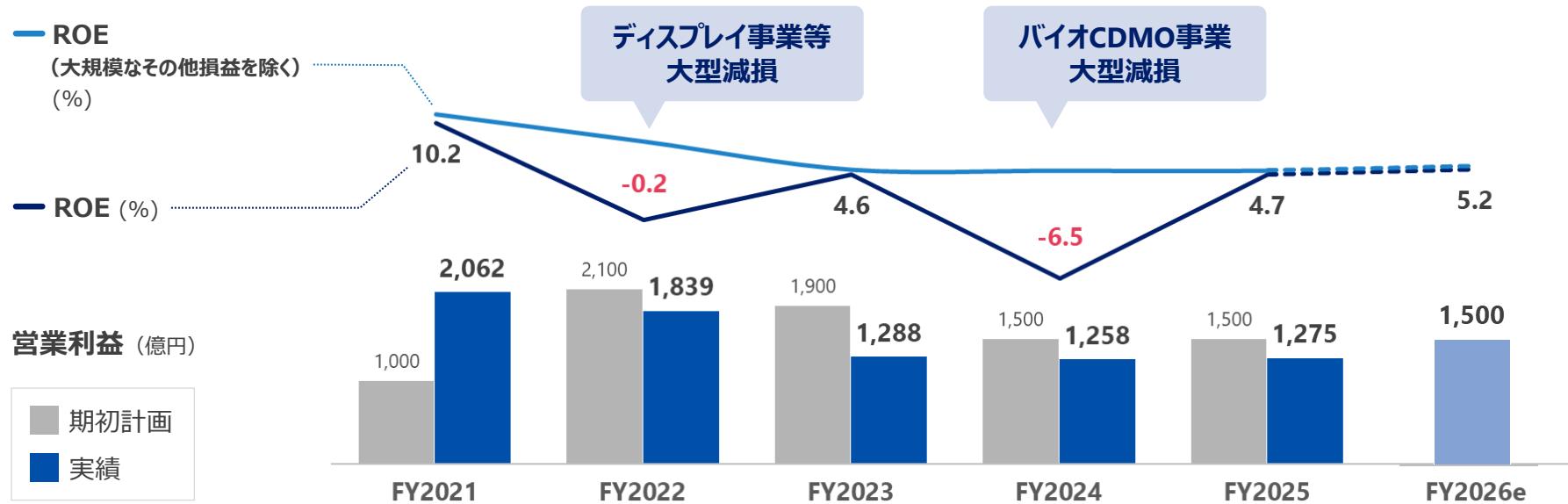


AGC株式会社

2026年2月6日

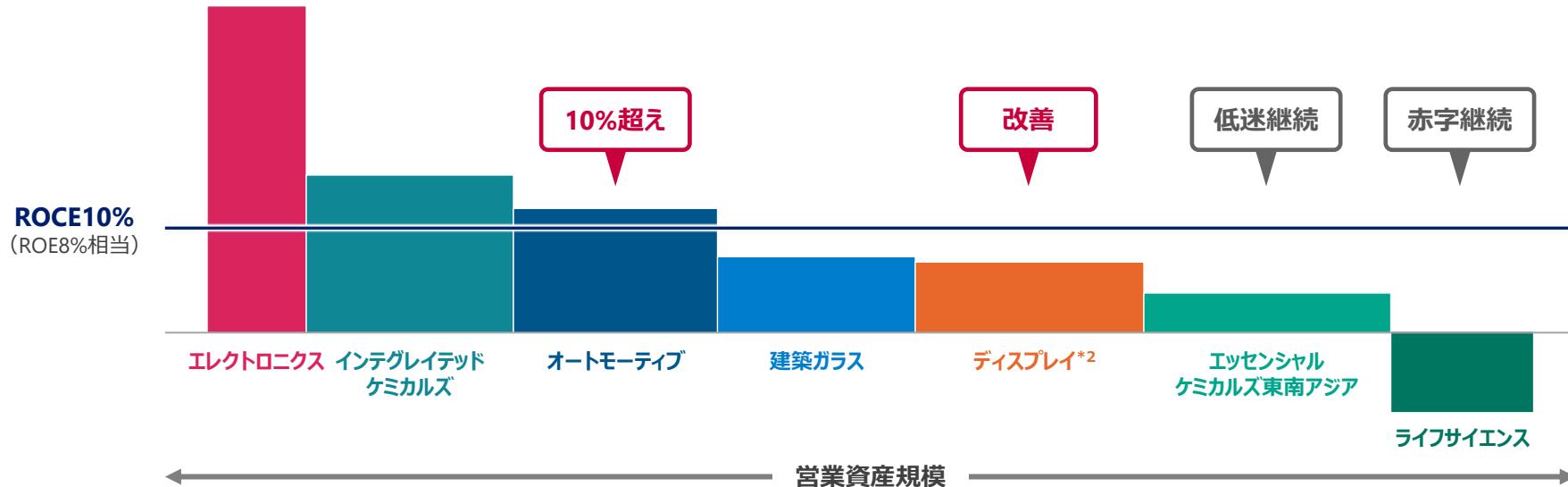
Your Dreams, Our Challenge

- 営業利益は4期連続で期初計画比未達となったものの、2024年比では増益
- 大型減損発生もあり、ROEは5%を下回る状態が継続
 - ↳ 2022年ディスプレイ事業、2024年バイオCDMO事業等



- オートモーティブがROCE10% を超え、ディスプレイも改善
- エッセンシャルケミカルズ東南アジアは低迷継続、ライフサイエンスは赤字継続

2025年 事業別ROCE*1(共通費配賦前)・営業資産イメージ図



*1 ROCE = (当年度営業利益) ÷ (当年度末営業資産残高)、事業別の営業利益は共通費用配賦前 *2 化学強化用特殊ガラスを含まない

- 2026年はROE5%以上を達成
- 2027年以降早期に株主資本コストを上回るROE8%超えを目指す

財務 KPI	2025年 実績	2026年	2026年2月発表
		2026年2月発表	
営業利益	1,275億円		1,500億円
戦略事業 営業利益	587億円		800億円
EBITDA*1	3,073億円		3,330億円
ROE	4.7%		5%以上 (5.2%見込)
D/E比率		0.5以下	
	株主資本コスト*2	約7%	加重平均資本コスト*2
			約5%

- 全社ROCE10%（ROE8%相当）を目指し、全ての事業で営業利益の向上と営業資産の適正化を図る

営業利益の向上施策



コスト削減
(安定生産・生産性改善)



価格政策



高付加価値化

営業資産の適正化



投資の厳選



在庫の削減



事業の売却・撤退

2025年に撤退を決定した主な事例

ライフサイエンスセグメント

- バイオ医薬品CDMOの米国コロラド拠点（大型SUSでの生産）

電子セグメント

- 化学強化用特殊ガラス事業
- ポリカーボネート事業

化学品セグメント

- AGCコーテック株式会社

- オプトエレクトロニクスは更なる高機能化に向けた移行期にあり、付加価値向上を推進し再成長を目指す
- 半導体関連部材は成長継続。EUV露光用マスクブランクスは先端分野の開発と拡販に注力

市場動向と戦略

オプトエレクトロニクス

市場動向

- スマートフォン市場は緩やかに成長
- センサーの大型化・高画素化がすすむ

戦略

- **更なる高機能化を推進**
- **車載カメラやAR/MRグラスなどの用途展開を継続**

半導体関連部材

市場動向

- 半導体市場はAI、データセンターなど最先端向けが市場拡大を牽引
- 後工程の技術進化により、関連市場は成長

戦略

- **先端分野の開発と拡販に注力**
- **技術開発により、後工程市場の成長を捉える**

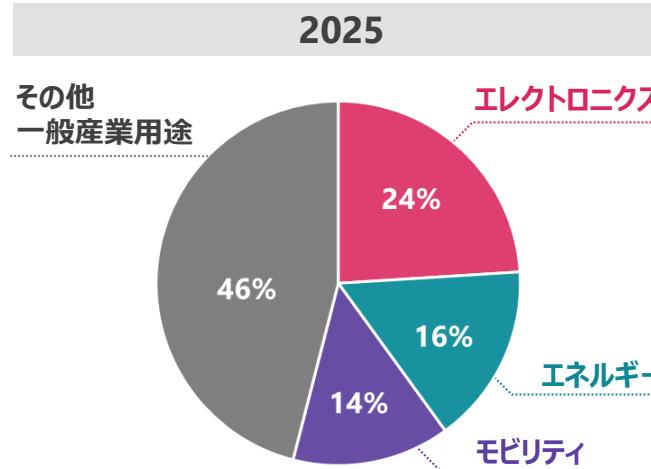
EUV露光用マスクブランクスの技術開発

露光機のスループットや解像度を向上できる次世代品を、
半導体デバイス世代・露光機のモデル毎に開発

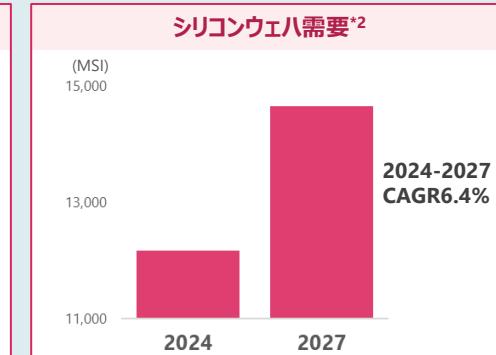
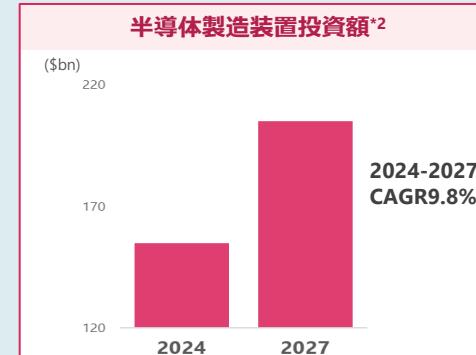
デバイス世代	露光機	AGCの開発状況
ロジック 7~2nm DRAM D1Z~D1D	Low NA (NA0.33)	開発完了
ロジック 1.4~0.7nm DRAM D0X~	High NA (NA0.55)	開発中
ロジック <0.7nm	Hyper NA (NA>0.7)	開発中

- インテグレイテッドケミカルズは、パフォーマンスケミカルズ^{*1}を軸にケミカルチェーン全体の最適化を図る
- パフォーマンスケミカルズは、エレクトロニクス、エネルギー、モビリティの3領域の高収益品に注力する

パフォーマンスケミカルズの用途別売上高比率（概算値）



エレクトロニクス市場見通しとAGC関連製品



AGC
製品

半導体製造装置のダクト・
配管部材・シール材等用の
フッ素樹脂・ゴム

AGC
製品

半導体プロセス材のフッ素樹脂・
ガス・冷媒・フィルム、パッケージ
ング材料のシリカ・フッ素樹脂

- 2025年にROCE10%を達成。収益改善3施策の継続により、数年内にROCE15%を目指す



市場動向

- 世界の自動車需要は2030年まで緩やかに増加、ハイブリッド車の増加やAI進化によるSDV^{*1}化がすすむ
- EV化は当初想定より鈍化がみられるものの、今後の伸長が見込まれている



1

価格政策

製品・サービスに見合う適正な価格水準を追求

2

事業構造改革

高効率設備導入を含めた徹底的な生産性向上

3

高機能・高付加価値化

CASEの拡大等に伴い、高付加価値品比率を向上

ROCEの変化 (共通費配賦前)

ROCE
10%



FY2022

FY2024

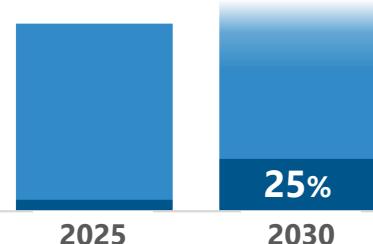
FY2025

FY2026e

FY2027e

売上高に占める モビリティ製品^{*2} 比率

■ モビリティ製品
■ 自動車用ガラス



- 収益改善施策を含め、地域の市場特性に合わせた事業戦略を推進する

市場動向と戦略

欧米



市場動向

欧州

需要低迷は続くも、需給バランス改善により価格は適正レベルを維持

南米

経済成長に伴い需要は堅調



戦略

欧州

- 需給動向に留意した価格政策
- 高付加価値化推進
(Low-E複層ガラスや真空断熱ガラス等)
- 継続的なコスト削減

南米

- 高付加価値化 (合わせガラス等)

アジア



市場動向

日本

リノベーション需要が下支え

東南アジア

需要は緩やかに増加するも、競争環境は激化



戦略

日本

- 価格政策
- 高付加価値化推進
(高断熱・高遮熱製品等)
- ガラスリサイクルの推進

東南アジア

- 構造改革の継続 (販売・流通網の強化、高付加価値化等)

- 2027年のROCE10%達成を目指し、収益改善策を着実に実行する



- TV画面の大型化によりガラス総需要は2030年まで緩やかに増加
- 大型ガラスの需要も増加基調

ROCEの変化 (共通費配賦前)



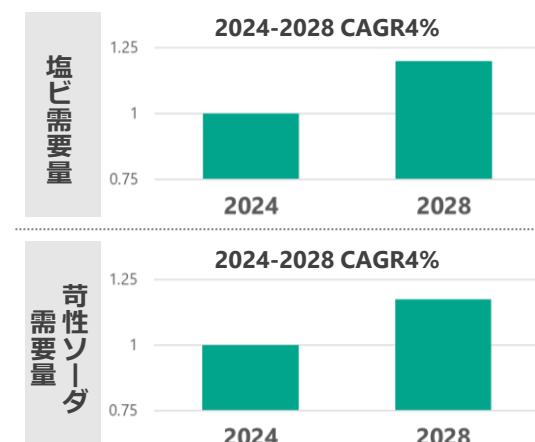
戦略

収益改善施策		2022	2024	2026	2028
1	事業構造改革 大型ディスプレイ用ガラス基板への集中による生産性向上				
2	価格政策 製品・サービスに見合う適正な価格水準を追求				
3	技術革新による競争力強化 競争力ある新製品を上市				

- タイの増設設備は2025年第3四半期稼働開始、2026年より本格稼働
- 東南アジア域内の需要は着実に伸長も、塩化ビニル樹脂・苛性ソーダの市場価格は引き続き低迷
- 域内生産のメリットを活かした販売戦略で、収益改善を図る

東南アジアの市場動向

- 塩化ビニル樹脂価格は中国経済低迷およびインドのアンチダンピング課税見送りにより低調に推移
- 需要是年平均4%で拡大し、クロールアルカリ製品の輸入超は継続。特に苛性ソーダは、引き続きインドネシア国内におけるアルミニウム、ニッケル精錬向け需要が拡大
- 主要原料であるエチレンの東南アジアにおける供給は拡大

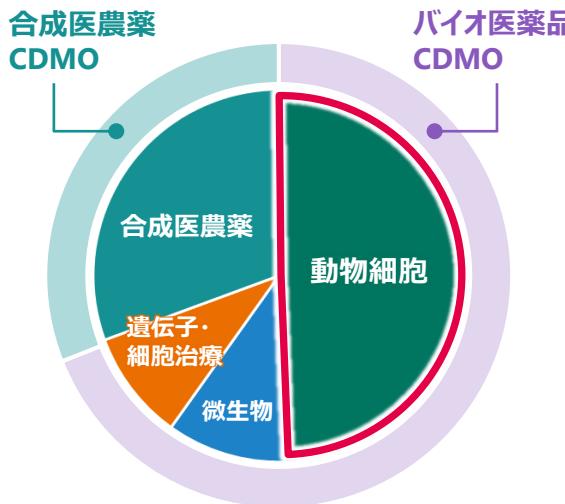


戦略

- 東南アジア域内需要成長の確実な取り込み
 - 域内での販売比率増加による販売コスト削減・マージン拡大
 - 需要地立地と域内販売・物流網を活かした価格戦略
- 競争力のある原料の確保
 - 域内供給エチレンの安定的確保

- 動物細胞は、SUB*での生産は安定化しつつあるが、受注拡大が課題
- 微生物、遺伝子・細胞治療、合成医農薬は、安定した実績と品質を維持

モダリティ別売上高構成比 (2025年)

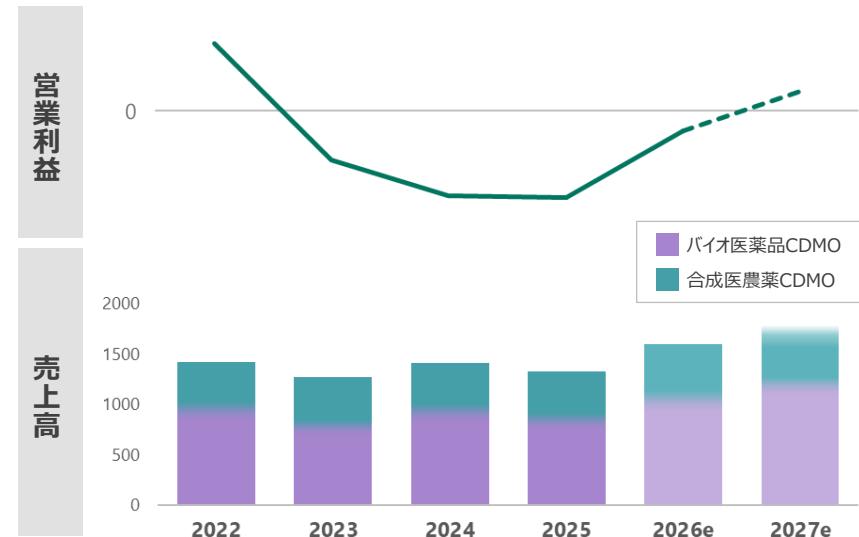


- 動物細胞の受注拡大に向け、各種取り組みを強化中
- ライフサイエンスセグメントの黒字化は、2027年以降となる見込み

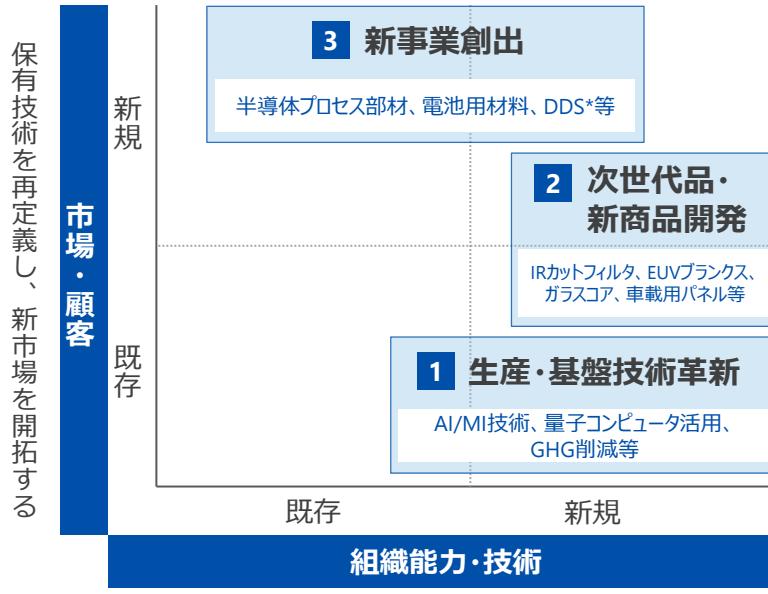
動物細胞の主な取り組み

受注拡大	営業・マーケティング強化
生産の安定化	AGCグループの生産技術力活用 デジタル・AI活用
コスト削減	コロナ拠点閉鎖、人員削減

ライフサイエンス 売上高と営業利益見通し (億円)



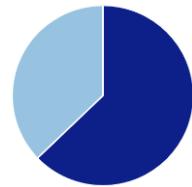
- 市場軸と技術軸で開発領域を選定
- 戦略領域の比率を高めていく



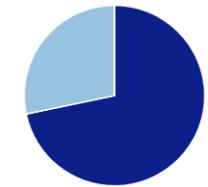
研究開発投資領域

■ コア ■ 戰略

2022-2024



2025-2027



開発例

2 次世代品・新商品開発

3 新事業創出

車載用リフレクティブパネルが、
CES Innovation Awards® 2026を受賞

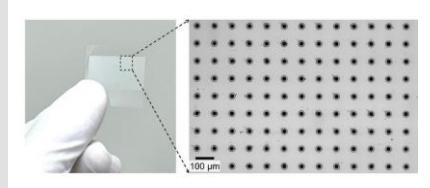


1 生産・基盤技術革新

2 次世代品・新商品開発

3 新事業創出

東京大学と共同で、ガラスを従来の100万倍
の速さでレーザー加工する技術を開発



- 半導体の前工程から後工程まで、エレクトロニクスとパフォーマンスケミカルズの多様な製品を提供

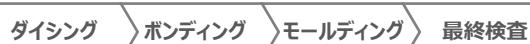
半導体関連製品

■ エレクトロニクス ■ パフォーマンスケミカルズ

ウェハ製造～前工程（回路形成）



後工程（パッケージング）以降



半導体メーカー等
向け消費材

半導体装置メーカー
向け材料

EUV
マスクブランクス



CMPスラリー

パッケージ用
ガラスキャリア

ペリクル原料



エッティング・
クリーニング
ガス材



CMP後洗浄液
(開発品)



反射防止膜



TGV*
(開発品)



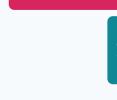
銅張
積層板



光導波路
(開発品)



RCC
(開発品)



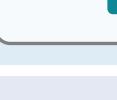
封止材用
シリカ
(開発品)



ビルトアップ
フィルム
(開発品)



低誘電
アンダーフィル
(開発品)



低誘電
フッ素樹脂



パッケージング材

SiC治具



露光機用
レンズ材



露光機用
レンズ材



半導体製造装置部品用 フッ素樹脂・フッ素ゴム

- チューブ
- バルブ
- シールリング
- ウェハキャリア
- 継手・ナット
- フィルター

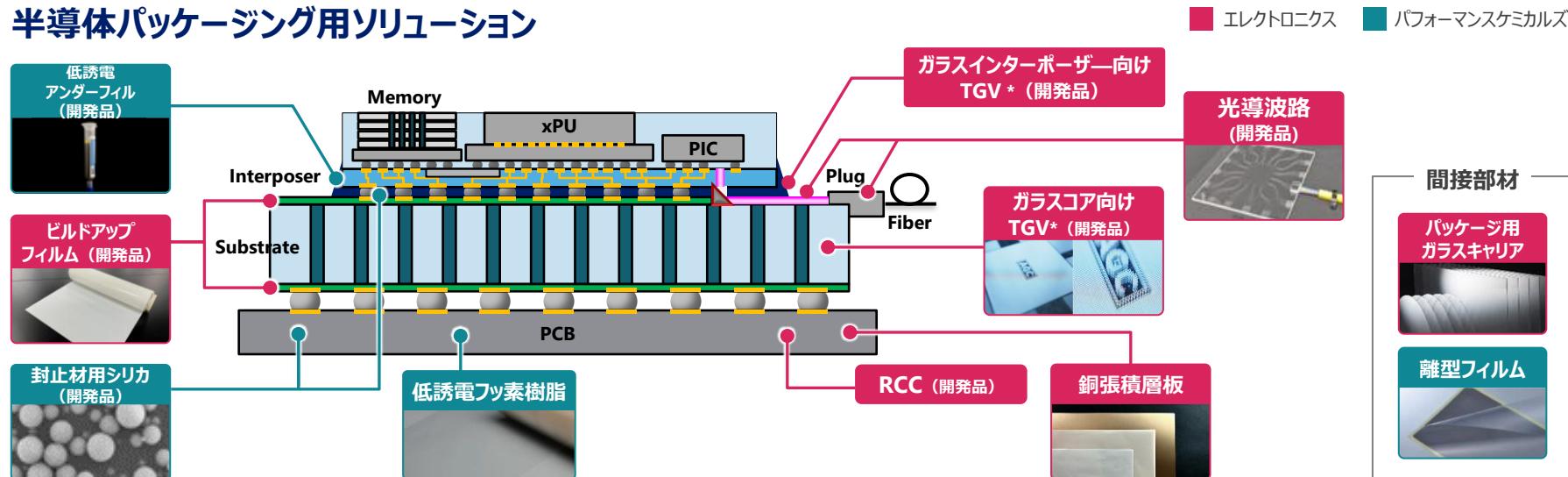


半導体パッケージング関連技術とソリューションの拡大

- 無機・有機の材料技術と、機能設計・加工、製造、共通基盤技術を駆使し、半導体パッケージングの進化に貢献していく



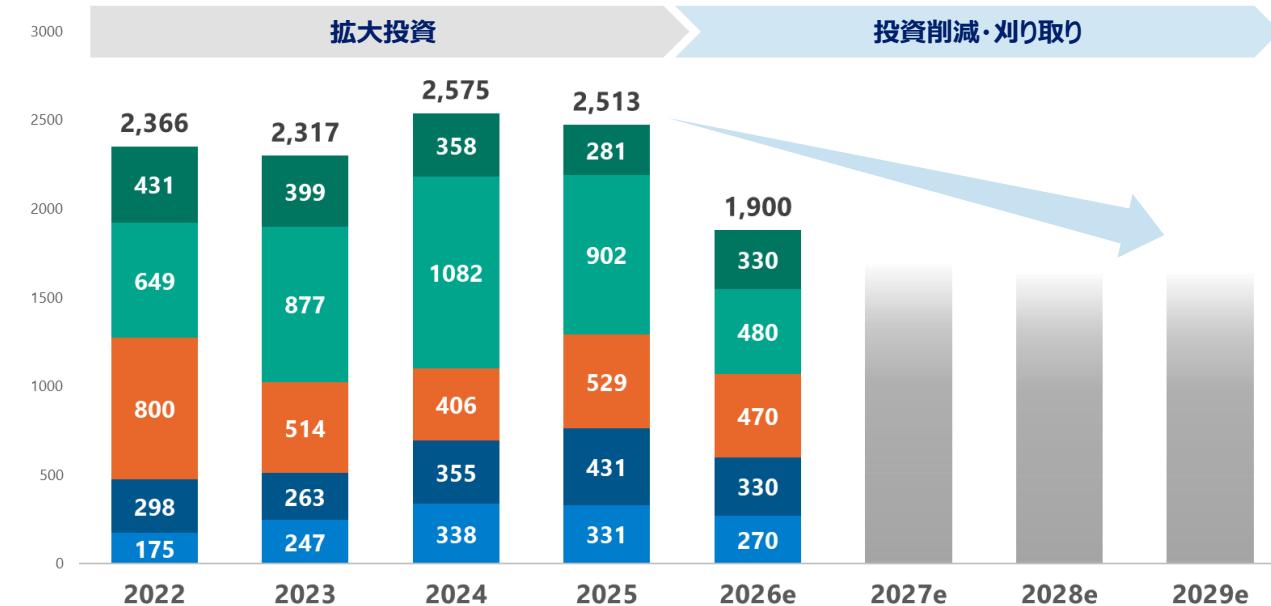
半導体パッケージング用ソリューション



*TGV (Through Glass Vias) : 微細孔付きガラス基板

- 2025年で大規模な能力拡大投資は一段落
- 2026年以降新規投資は大幅に抑制し、これまでの投資の回収に注力する

設備投資額 (億円)



- DOE*3%程度を目安に安定配当
- 2026年の1株当たり配当金額は2025年の水準を維持
- 2027年以降、業績回復に応じ還元方針の見直しも検討

1株当たり配当金額推移 (円)

	50	105	105	105	105	105
特別配当						
期末配当	80					
中間配当	80	105	105	105	105	105
	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025e	FY2026e
自己株取得 (億円)	—	—	500	—	—	未定
連結総還元性向	38%	—	145%	—	64%	58%
連結配当性向	38%	—	69%	—	64%	58%
DOE	3.8%	3.4%	3.2%	3.1%	3.0%	3.0%
株主還元方針	連結配当性向 40% を目安に安定配当、 機動的に自己株取得			DOE 3% 程度を目安に安定配当、 自己株取得は総合的に判断		

■ コーポレートガバナンスをさらに深化させるため、監査等委員会設置会社へ移行

● 2002年 コーポレートガバナンス改革

監査役会設置会社の枠組みで社外取締役2名を招聘し、「監督」と「執行」を分離

● 2003年 任意の指名委員会／報酬委員会を設置

● 2005年 社外取締役を2名から3名に

指名委員会／報酬委員会の構成を社外取締役過半数以上に

● 2011年 取締役会議長を社外取締役に

● 2017年 指名委員会／報酬委員会の委員長を社外取締役に

現在の高い実効性を維持しつつ、
コーポレートガバナンスをさらに深化

● 2026年 監査等委員会設置会社へ移行*

社外取締役過半数の体制へ

取締役会の監督機能をより強化し、企業価値向上を図る

取締役会	計10名（社内4名、社外6名）
監査等委員会	計4名（社内1名、社外3名）
指名委員会	計4名（社内1名、社外3名）
報酬委員会	計4名（社内1名、社外3名）

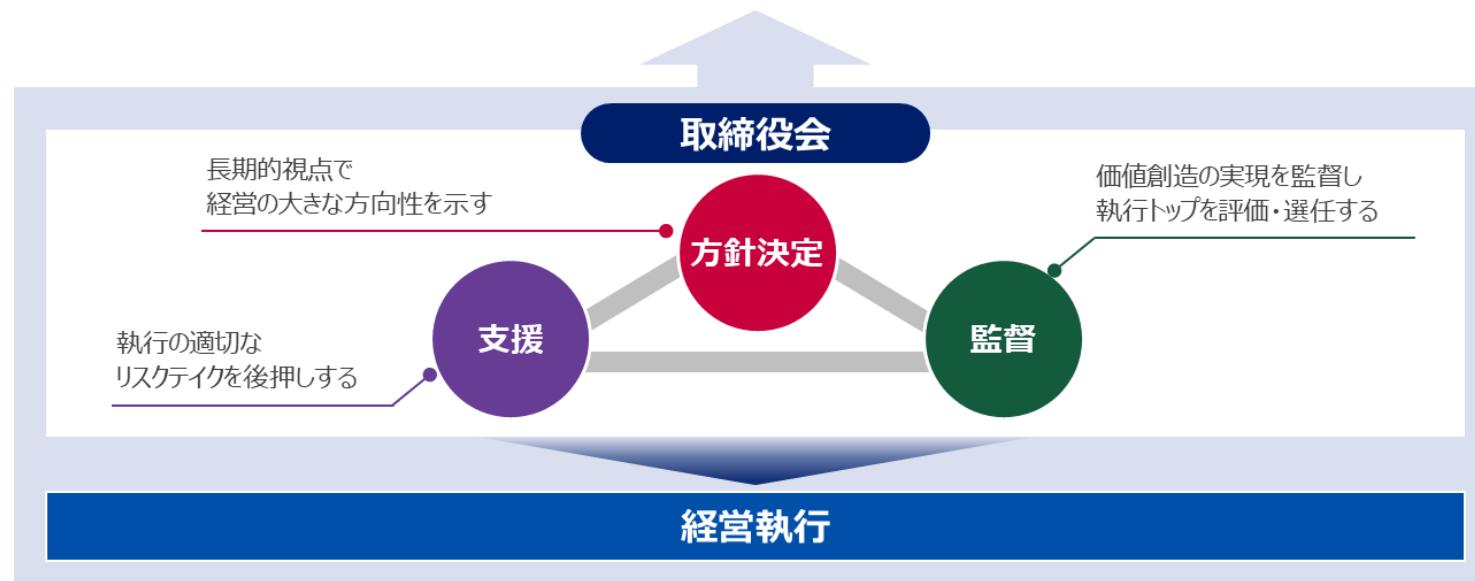
※監査等委員1名が指名委員会／報酬委員会にオブザーバー出席

取締役会、監査等委員会、指名委員会、報酬委員会のいずれも社外取締役が議長・委員長を務める

* 2026年3月開催予定の第101回定時株主総会での承認を前提として
移行予定

- 取締役会の役割を改めて定義し、更なる価値創造の実現を推進

AGCの競争優位性を基盤とした価値創造の実現



予測に関する注意事項：

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものですが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願ひいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権はAGC株式会社に帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。